

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和2年3月16日(月)
(2020年)

地域企業紹介 66

株式会社 MEMO テクノス

お客様の“したい”を“かたち”にする
モノづくりで
明るく豊かな社会を創造!!

音響/アナウンス分野、ロボティクス/自動制御分野、通信/IoT分野からなる既存3分野のシナジー効果による“省力化ソリューション”を提供する株式会社MEMOテクノスの渡邊将文社長を相模原市南区大野台の本社に訪ねました。

渡邊将文社長は自然に恵まれた八王子市川口町の出身。初夏になると生家の裏側に流れる小川に“蛍”が舞う。夕暮れにその蛍を捕まえては部屋に放し、窓を開けたまま電気を消して、しばらく幻想的な光景を楽しみながら眠りにつく。そんな少年時代が今でも懐かしい思い出になっているという。地元の小中学校を経て、日野市にある都立南平高等学校に第5期生として入学。創立間もなかった同校では、授業が8時限目まである日があったり、男子は3月からプールに入るなど新しいことにチャレンジする学校だったと渡邊社長。その頃夢中になっていたのはオートバイ。モトクロスチームに所属し、果敢な走りに挑んでいたそうだ。その後、川崎市にある大手メーカー向け人材派遣会社に就職し12年間の勤務経験をもつ。その間、携帯電話やインターフォン、大型ディスプレイなど様々な先端的開発現場を経験。20代前半には、鉄道の大規模駅の自動放送システム開発を手掛け、短期間で開発することに成功。すぐ壊れないものを作ってほしいというユーザーの要望を限りなく追及した。その結果、20年以上前に設置したシステムが今でも壊れることなく当時のまま活躍しているという。その後、大手メーカーの工場システムや新幹線向けのシステム開発を手掛けていたが、突如、勤務会社がモノづくりから撤退することになった。取引先への事情説明とお詫びに奔走する中、取引先からの業務継続要請があまりにも強かったことが、MEMOテクノスを設立するきっかけになったのだという。

渡邊社長率いるMEMOテクノスは、2006年10月に法人設立。人口減少が進む中、人手不足の解消を課題とする企業などに省人化・省力化・自動化ソリューションを提供するシステムインテグレーターだ。もともとサウンドエンジニアである渡邊社長。音響分野、ロボティクス分野、IoT分野の3つの分野を軸とした事業を展開している。

音響分野では、多言語コミュニケーション・音声合成アナウンスシステム開発などを展開、公共機関向け自動放送システムでは業界屈指の導入実績を誇る。そのほか商業施設・イベント会場などにおける自動放送システムなども手掛けている。

代表取締役：渡邊 将文（わたなべ まさぶみ）

所在地：神奈川県相模原市南区大野台 1-5-2

従業員数：17名（うち女性4名）

資本金：500万円

事業内容：ロボティクス、IoT、情報ネットワークの各分野における省人化システムの受託開発

URL: <https://www.memotechnos.co.jp/>

IoT分野では、非電波通信・IoTデバイス・次世代通信・生産管理システムなどの開発を展開。様々な製造現場の工程改善に必要な情報の可視化を手軽に始められる中小企業向けIoTデバイス「マイクログキューブ」を自社開発製品として世に出している。ロボティクス分野では、社員の「ロボット事業をやりたい」という情熱と相模原市の重点施策が合致したことが事業スタートのきっかけ。専用設計自動機・汎用ロボットシステムなどの開発で豊富な実績を持ち、特注ユニットや周辺機器のシステム開発を得意とする。移動型や協働型省力システムの請負人として、作業効率アップ・不足人員の代替などを目的に移動して人と共存して働く「ルークス」シリーズの自社開発も積極的に展開している。そんな同社はワンストップメイキングとして「打ち合わせ、仕様化、開発設計、製造、設置、保守メンテ、リプレイス」までを一括対応することができる。特に現場実態の調査分析に重点をおき、ユーザーへ質問を行いながら問題点を見つけ出し、仕様書を同社にて作成できることがMEMOテクノスの大きな強みだ。

以前、渡邊社長は飼っていた生後半年のウサギに大けがをさせてしまったことがある。一命を取りとめたものの下半身不随となり、医師の診断は余命1年。なんとかしたいという一心でウサギ用

の車いすを製作。それからウサギは10年を超える長寿を全うした。そのウサギの名前が「MEMO君」、まさに社名の由来だ。「世の中にないモノをつくり、困っている人をモノづくりを通じて助けたい」という想い、これが渡邊社長のモノづくりの原点だ。

相模原を拠点に事業を展開する渡邊社長は、祖父の時代から相模原に縁があり、多くの人に恵まれたと感謝している。また、相模原には多くの大学があり、同時に優れたモノづくり企業も多く存在する。学生とモノづくり企業が、もっと気楽に出会える場があるとうれしいと話す。現在「さがみはらスマートものづくり応援隊」として、製造現場のお悩み解決に貢献するMEMOテクノスは、今年1月に神奈川県内工業の発展に寄与する工場として、令和初の**神奈川県優良工場表彰**を受賞した。

人がやらなくてもいい仕事はロボットに任せ、人でないと出来ないワンランク上の仕事を人がする。まさに省人化・省力化ソリューションは人をステップアップさせる仕事。各企業が持つ様々な課題を自社でも取り組み、その生きたノウハウと今まで培った技術力、そして何よりも社員の情熱を武器に、これからもお客様の「したい」を「カタチ」にするモノづくりで、明るく豊かな社会の創造を目指すMEMOテクノスの挑戦に終わりは無い。

入居企業紹介

67

技術はコミュニケーション能力

株式会社ボード・プランニング



前列中央が大谷社長

製品開発やシステム開発（ハードウェア／ソフトウェア）、車載セキュリティネットワーク開発、プリント基板設計など、自社内で多岐にわたる事業を展開する株式会社ボード・プランニングの大谷保憲社長にお話を伺いました。

NEC（日本電気株式会社）出身の大谷社長は、メーカーで培った技術を活かして、2005年2月に株式会社ボード・プランニングを設立し、本年で15周年を迎えました。SICには2008年5月より入居され、多くの企業・経営者とのネットワークを生み出しながら、地域を牽引するリーダーの一人として活躍されています。

創業当初はプリント配線板の設計業務が主で、評価用のボードやカスタム製品設

計などを受託していました。その後、徐々に大手メーカーからの引き合いも増え、現在は、ハードウェア開発（ASICやFPGAの設計・開発）やソフトウェア・ファームウェア、アプリケーション開発なども受託し、顧客ニーズに合わせたカスタム製品を生み出せる体制を整えています。

近年では、2016年からの3年間、国家プロジェクトである内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の共同研究にも参画。自社製品「車載ネットワーク評価向けECUボード（製品名：Hydrangea）」が採用されるなど、車載ネットワークのセキュリティに関する調査・研究から開発・検証まで幅広く取り組んでられました。

今後は、EDAツールベンダーや半導体チップメーカー、商社などと連携し、モデル開発ベンダーの一社として事業ドメインを広げていくほか、これまでに培ってきたハード／ソフト両面の開発力を活かした協働ロボットのシステムインテグレーション事業および販売、リースにも注力していくそ

うです。（ドイツ製FRANK EMIKA、中国製SIASUN 新松）

技術が変革する時代において、上流工程から製品（モノづくり）までをサポートするボード・プランニング社。新たな市場展開に向けた産業集積イノベーションを創出する相模原プラットフォームビジネスとして、顧客満足を実現する事業領域の拡大に取り組んでいます。そして、「技術はコミュニケーション能力」を理念に掲げる同社では、大谷社長を中心に、営業・技術スタッフ全員が一丸となり、顧客の課題に耳を傾けながら、日々技術力・提案力を磨き成長を続けています。

ドイツ製協働ロボット
FRANK EMIKA

株式会社ボード・プランニング
SIC-2 604 号室
URL: <http://www.b-planning.com/>



「プレスリリース」ってなに？

今回は「広報」と「宣伝」の違いについて書きましたが、今回はいよいよ本題になります。私たち中小企業がメディアに向けて手軽にできる広報とは何かあるのでしょうか？ 私がお薦めするのが「プレスリリース」(ニュースリリースとも呼びます)です。プレスリリースとは、マスコミへの情報提供の手段、報道機関へのお知らせと言えます。採用されれば「展示会などの出展費用」を抑え、「広告宣伝費ゼロ」で周知できるメリットもあります。

実際、誰もが知っている大企業には必ず「広報部」があり、中にはほぼ毎日のようにプレスリリースを出す企業もあります。こうした企業のプレスリリースは誰でも読むことができます。企業のホームページから「プレスリリース」あるいは「報道発表」などの項目をクリックすれば読めるようになっています。一度ご確認ください。とはいえ、初めて実践する会社にとっては当然、どんな内容を書いたらよいのか？ との悩みもあります。しかし、探してみれば絶対にあるはず。例えば▽新商品・新技術開発▽社内外のイベント告知▽新事業▽新工場、新拠点設置一などです。社内でネタを発掘してリリースするのも広報の役割といえます。

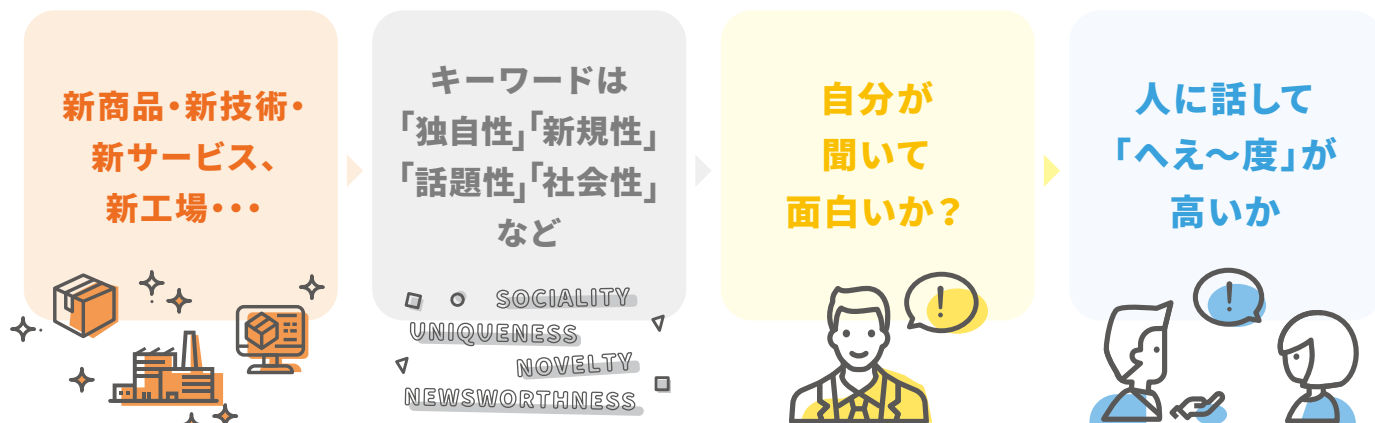
ここで絶対にお伝えしたいことがあります。くどいようですが「広報」と「宣伝」は別物です。プレスリリースとは、いわば「ニュース」です。宣伝ではありません。不特定多数の人、いわゆる第三者が読んでみて「おもしろい」「へえー

「すごい」となるかどうかです。ある企業が新製品のプレスリリースを発行したとします。それに目を通した記者が、自社媒体に掲載する判断材料となるのは、客観的な視点から「新規性」「話題性(世の中のニュースに直結するような)」「独自性」などがあるかどうかです。一般紙の場合、「社会性」(この製品を出すことで世の中がどうなるか。地域がどうなるか)の視点も加わります。専門紙・業界紙の場合は「業界にとってどのような影響を及ぼすか」といった要素が必要になります。

メディアには、そのニュースを採用することや伝えたことでの「責任」が発生します。「なぜこの話題を書いたのか、掲載したのか」の説明責任があります。客観性がなく、ただただ宣伝色が強いものを掲載したとなれば、当然、ライバル企業や読者からの抗議を受け、媒体の信用性はたちまち低下してしまいます。したがって宣伝色が強い内容は絶対に敬遠されるのです。ある商店が「全品10%割引セールを始めました。消費者にやさしく」とプレスリリースを書いたとします。これは宣伝に過ぎませんし、珍しくもない客観性がありません。もしこのお店がメディアを使って周知したい場合は、しっかりと費用をかけて広告宣伝をするべきです。

以上、今回はプレスリリースに対する考え方について書きましたが、次回はいよいよ実践編に移りたいと思います。

プレスリリースのネタ



とん亭

相模原市緑区二本松の住宅地にあるとん亭にお邪魔しました。昭和52年創業の二本松でも指折りの老舗は、女将がテーブル2卓、カウンター6席を1人で切り盛りしています。今回は定番のロースカツ定食、ヒレカツ定食をいただきました。つなぎは卵のみ、豚のラードで揚げるといふこだわりが、美味しいカツの秘訣とのこと。定食はごはんをはじめ一品一品がおいしく、夜はお酒とともに楽しむ方もいらっしゃるそうです。店舗は移転の際に自宅の駐車場を改装したそうで、隠れ家風の温かみのある内装になっています。二本松の変遷を見続ける女将の明るく楽しいお話と、ぬくもりのある料理をぜひご堪能ください。

神奈川県相模原市緑区下九沢2877 Tel. 042-763-6263
営業時間: 11:30-13:30、17:00-21:00 定休日: 土日祝



女将の吹越さん



店内(カウンター席)



食のさんぽ道



ロースカツ定食



ヒレカツ定食



SIC職場リーダー養成塾

第14期塾生募集!!

中小・中堅企業の経営者の皆様より、リーダー養成を目的とした研修開催の要望を受け、平成19年に開講した「SIC職場リーダー養成塾」が14年目を迎えました。

これまで88社・206名の方が受講し、課題解決力とコミュニケーション力を身に付け、職場リーダーとして「組織で成果を出す力」を学んでいただきました。

本年も全10回のカリキュラムで塾生各自の職場の課題をテーマにチームディスカッションを行い、ものの見方、考え方の幅を広げていただきます。

開催期間	令和2年5月30日～12月9日(全10回)
会場	さがみはら産業創造センター 他
募集人数	16名(1社3名まで受講可)
対象	中小・中堅企業の職場リーダーおよびリーダー候補
受講料	129,800円(税込)/名
問い合わせ	株式会社さがみはら産業創造センター(担当:事業創造部 五島)



4月にリニューアルオープン!!

2010年にフリーアドレスオフィスとしてサービスを始めた「Desk10」が、ものづくり空間を備えてリニューアルオープンいたします。

SIC-1の1階ホールに新たに整備する「Desk10」は、起業家や入居企業、そして地域企業の皆様に明るい空間を活かしたオープン型のフリーアドレスオフィスを提供するとともに、経験豊富なインキュベーション・マネージャー(IM)が常駐し、経営サポートを提供いたします。

さらには、プランづくりや設計などの集中した作業に適した執務スペース『プランニングエリア』や、ものづくりのための作業が可能な工房スペース『クラフトエリア』を1階ラボ室内に整備いたします。

SICは、新たなDesk10利用者の皆様へ、ご自身の事業に合わせた多様なスタイルで利用可能なビジネス環境を提供してまいります。

設備

オープンエリア [40㎡]

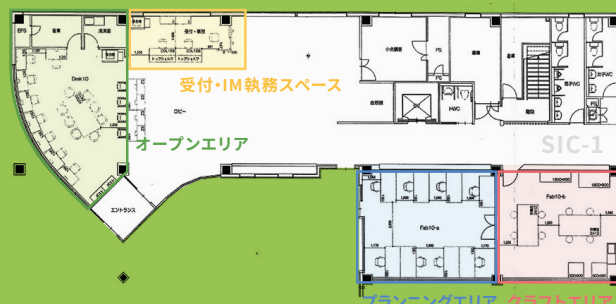
フリーデスク(8席)、フリーテーブル(8席)、ハイテーブル(4席)、複合機(プリンター、コピー、スキャナー)、Wi-Fi

プランニングエリア [50㎡]

長机型フリーデスク(8席)、Wi-Fi

クラフトエリア [50㎡]

作業台2卓(8席)、Wi-Fi



利用時間：9時～21時(土日・祝日も利用可。ただし、年末年始は除く)
その他のサービス(有料)：住所使用、鍵付き専用ロッカー、貸し会議室

2020.03

SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

4月15日(水) JOB MEETS 23rd ～合同就職説明会～(共催:専修大学)
参加企業募集中!! 詳細はお問い合わせください。

※ SICでは、新型コロナウイルス感染症の市内・国内での発生状況を考慮し、参加者の方々を中心とした感染の拡大を防止するため、SICが主催する各種イベントについては、一部を除き延期または中止といたします。ご理解、ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。



入居企業を募集してます。

SIC空室情報(令和2年3月16日現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 Startup Lab.	○ラボ(94.5㎡)	1 246,600円
	○セミラボA(47.3㎡)	1 140,600円
	○スモールオフィスA(23.6㎡)	1 78,700円
	○スモールオフィスB(17.3㎡)	1 64,200円
SIC-2 Creation Lab.	○オフィス(50.2㎡)	2 172,700円
SIC-2 R&D Lab.	○マルチラボ(63.18㎡)	6 250,200円
SIC-3 Innovation Lab.	空室はありません	- -

編集後記

「地域企業紹介」にご登場いただいたMEMOテクノスには、社名の由来でもあるウサギがモデルのマスコットキャラクター「メモくん」がいます。会社の宣伝部長でもあるメモくん。好きな食べ物は「そば」、嫌いな食べ物は「にんじん」だそうです。調べてみると、にんじん嫌いのウサギって、意外と多いみたいですよ。ちなみに、皆さんの会社にマスコットキャラクターはいますか？

メモくん



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>